



愛知県農林水産業の 試験研究基本計画2025 [水産業部門]

中間評価について



重点研究目標

研究事項

ア.
豊かな水産資源を育む
漁場環境の創造



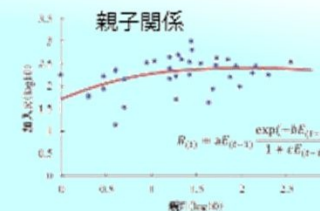
- (ア) 栄養塩環境の管理技術の開発
- (イ) 漁場環境のICT技術を活用したモニタリングと漁業被害軽減技術の開発
- (ウ) 漁場機能を高める干潟・浅場造成技術の開発



イ.
気候変動等の環境変化
に対応した水産資源の
持続的利用



- (ア) 水産資源の評価手法の開発
- (イ) 水産資源の持続的利用に必要な管理手法の開発
- (ウ) 漁業経営の安定化につながる漁業技術の開発



ウ.
地域の特性を活かした
増養殖の推進



- (ア) 資源の維持増大・有効活用のための増養殖技術の開発
- (イ) 漁業経営の多角化のための増養殖技術の開発



これまでの経緯と今後の予定



令和5年6月～8月 各研究グループ内において自己評価を実施



8月28日 水産業専門分科会での検討、評価



10月18日 水産業専門分科会での評価結果を踏まえた
中間評価資料の提出



11月21日 愛知県農林水産技術会議本会議で評価結果
を報告



中間評価結果をフィードバックし、次年度以降の研究推進に反映



重点研究目標の進捗

ア 豊かな水産資源を育む漁場環境の創造



達成目標数（計画時点：7）

目標を達成し 完了	実施中	計画を変更 (c~d評価)	研究を中止 (c~d評価)	新規研究を 開始	達成目標数 (中間評価時点)
0	7	0	0	0	7

（1）計画期間で得られた主な成果

- 貧酸素水塊の形成に伴って発生する硫化水素を抑制する各種鉄材の効果や海産生物に対する影響を評価した。
- アユの餌である付着藻類調査を実施し、近年では良好な餌環境レベルを下回っていることを確認した。
- 矢作川および豊川浄化センターで実施された栄養塩増加運転による、水質の変化や植物プランクトンの増殖状況を把握し、ノリの色調向上やアサリ現存量の増加を確認した。

（2）新たな対応が必要となった研究（見直し、中止、新規研究課題）

- 該当なし

イ 気候変動等の環境変化に対応した水産資源の持続的利用



達成目標数（計画時点：8）

目標を達成し 完了	実施中	計画を変更 (c~d評価)	研究を中止 (c~d評価)	新規研究を 開始	達成目標数 (中間評価時点)
0	8	0	0	0	8

（1）計画期間で得られた主な成果

- トラフグについて、年齢構成の細分化を行い、資源評価の推定精度が向上した。
- 伊勢湾における底びき網の漁獲対象種が大きく変化していることを明らかにし、これに対する漁具や操業状況の変化について把握した。
- イワシ類について、春季の内湾禁漁により、漁獲量の増大が見られることを確認した。

（2）新たな対応が必要となった研究（見直し、中止、新規研究課題）

- 該当なし

ウ 地域の特徴を生かした増養殖の推進



達成目標数（計画時点：9）

目標を達成し 完了	実施中	計画を変更 (c~d評価)	研究を中止 (c~d評価)	新規研究を 開始	達成目標数 (中間評価時点)
0	9	0	0	0	9

（1）計画期間で得られた主な成果

- フリー配偶体を用いて種苗養成期間の短縮が可能なワカメ種糸生産技術を開発した。
- 生分解性（麻）の袋網を使用し、アサリ稚貝移植後の保護効果及び管理の省力化を確認した。
- 大豆イソフラボンを用いたウナギの雌化技術により、養殖生産現場での大型ウナギの生産を実用化した。

（2）新たな対応が必要となった研究（見直し、中止、新規研究課題）

- 該当なし